

第179回 中小企業の景気動向調査

調査時点	2019年3月上旬
調査対象期間	2019年1月～3月実績 2019年4月～6月見通し
調査対象企業	当金庫お取引先 1,782社(大阪府内ならびに尼崎市)
回答企業数	1,527社
回答率	85.7%
調査方法	調査票郵送および聞き取り調査
分析方法	DI(Diffusion Index)を中心に分析 DIとは、売上、収益、価格、数量について、「増加」(上昇)と回答した企業割合から「減少」(低下)と答えた企業割合を差し引いた値 [例:売上DIの場合] 売上が「増加」と答えた企業の割合から「減少」と答えた企業の割合を差し引いて求めます。

売上が「増加」した企業 45%	「変わらず」 20%	売上が「減少」した企業 35%
--------------------	---------------	--------------------

45% - 35% = 10 ← 売上DI

アンケート回答企業の内訳

業種別 従業員別	製造業	卸売業	小売業	飲食業	建設業	サービス業	運輸業	不動産業	計	構成比	累計 構成比
1～4	90	58	93	42	58	70	7	54	423	27.7%	27.7%
5～10	130	65	33	15	90	55	17	29	461	30.2%	57.9%
11～20	122	30	10	11	53	36	19	7	284	18.6%	76.5%
21～30	46	17	6	7	14	21	19	3	130	8.5%	85.0%
31～50	32	4	5	4	9	16	8	5	91	6.0%	91.0%
51～100	18	10	4	0	6	11	9	4	53	3.5%	94.4%
101～	12	2	2	1	1	9	5	1	32	2.1%	96.5%
無回答	6	0	3	3	3	3	2	2	16	1.0%	97.6%
計	456	186	156	83	234	221	86	105	1,527	100.0%	
構成比	29.9%	12.2%	10.2%	5.4%	15.3%	14.5%	5.6%	6.9%	100.0%		



(製造業の内訳)

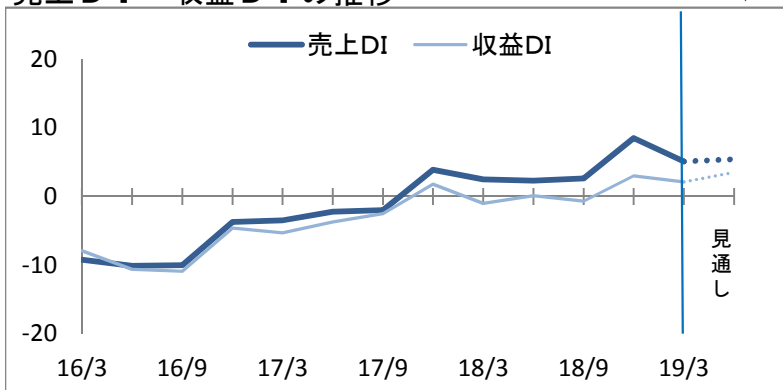
食料品	繊維	木材	家具・建具	パルプ・紙	印刷	化学
4.3%	10.1%	2.0%	1.6%	1.4%	8.6%	5.9%
ゴム・革	鉄鋼	建材	非鉄金属	金属製品	電子部品	その他
3.4%	10.8%	0.7%	4.7%	31.9%	4.5%	10.1%

総合

安定した景況感も 製造業で陰り

売上DI・収益DIの推移

n=1,527

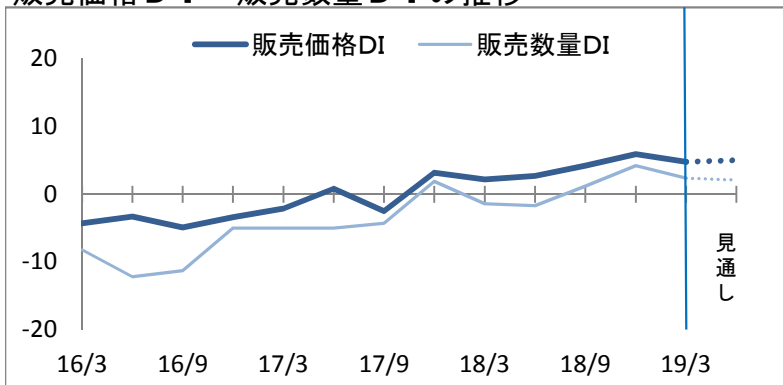


売上DIは+5.1（前回比△3.4ポイント）、収益DIは+2.1（前回比△0.9ポイント）となり、売上DIは下落し、収益DIは横ばいとなりました。

建築金物の需要増により金属関連主体に卸売業の売上が回復し、不動産業も消費税率引き上げの駆け込み需要で上昇しました。下落した業種もありますが、全体として景況感は安定しています。

2019年4-6月期は、売上DIが0.3ポイント、収益DIが1.4ポイントともに上昇と予想しています。

販売価格DI・販売数量DIの推移

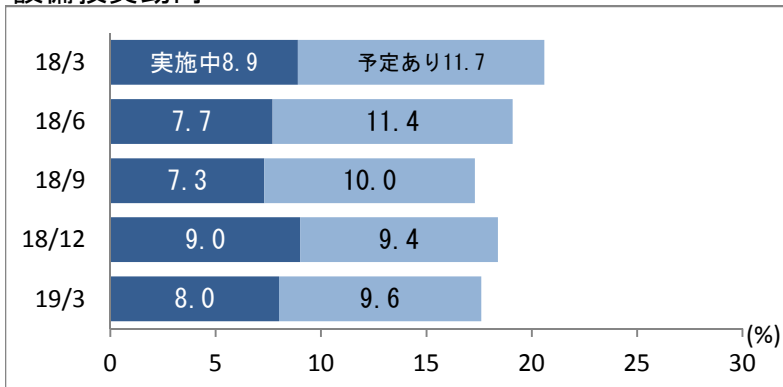


販売価格DIは+4.8（前回比△1.1ポイント）、販売数量DIは+2.4（前回比△1.8ポイント）となり、販売価格DI、販売数量DIともにわずかに下落しました。

双方の下落が売上DI下落の要因となっています。その中であって、小売業は販売価格DI、販売数量DIともに上昇しています。今年の冬は比較的暖かく、春物衣料が例年より早く店頭並び、売上が好調だったことが影響していると思われます。

2019年4-6月期は、販売価格DIが0.2ポイント上昇、販売数量DIが0.3ポイント下落と予想しています。

設備投資動向

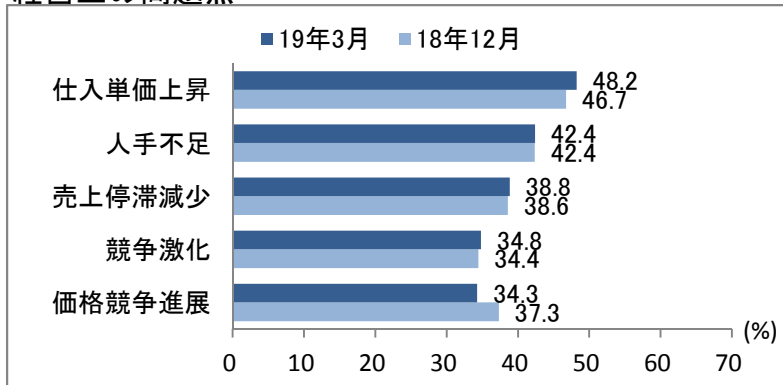


「実施中」8.0%（前回比△1.0ポイント）、「予定あり」9.6%（前回比+0.2ポイント）で合わせて17.6%となりました。

中でも製造業では「実施中」12.0%、「予定あり」10.2%の合計22.2%で2割台を維持しています。2月のものづくり補助金の公募開始の効果もあると思われます。

設備投資の内容は「機械等の新設・増設」が31.9%と最も高く、資金調達方法については「借入の利用」が51.2%と最も高くなりました。

経営上の問題点



第一位は「仕入単価の上昇」（48.2%）、第二位は「人手不足」（42.4%）、第三位は「売上受注の停滞減少」（38.8%）となりました。

鉄鋼など原材料価格が高止まりし、さらに原油価格が再び上昇傾向にあり、食料品も加工品の値上げが相次いでいます。これらがコスト増の要因となり、収益低下への懸念が広がっています。

また、人手不足は卸売業、飲食業でも経営課題として浮上し、ほとんどの業種で深刻化しています。マンパワー不足が今後の売上伸長にも大きく影響を与えています。

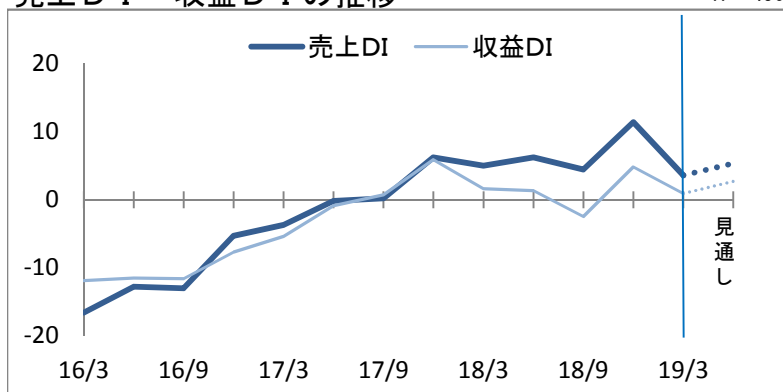
（中小企業診断士：福井）

製造業

ものづくり補助金 投資意欲を動かすか？

売上DI・収益DIの推移

n=456

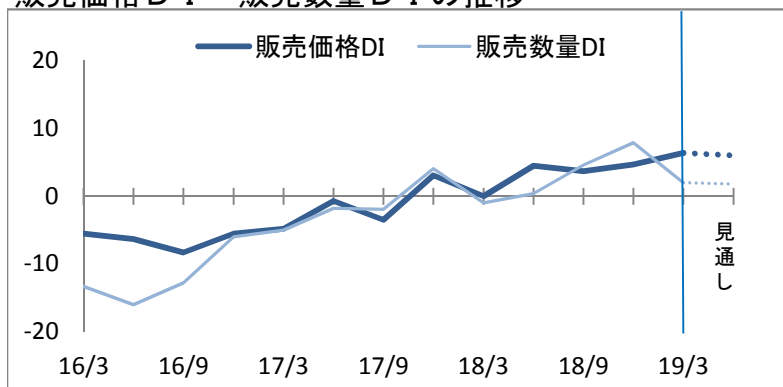


売上DIは+3.6（前回比△7.8ポイント）、収益DIは+0.9（前回比△3.9ポイント）となり、売上DI、収益DIともに下落しました。

非鉄金属、金属製品関連が前回調査に比べて下落しました。金属価格の高止まりが続き、売上が鈍りつつあるものと思われます。ただ、電子部品関連や食料品関連は好調であり、全体として売上DI、収益DIともにプラス圏を維持しています。

2019年4-6月期は、売上DIが1.7ポイント、収益DIが1.8ポイントともに上昇と予想しています。

販売価格DI・販売数量DIの推移

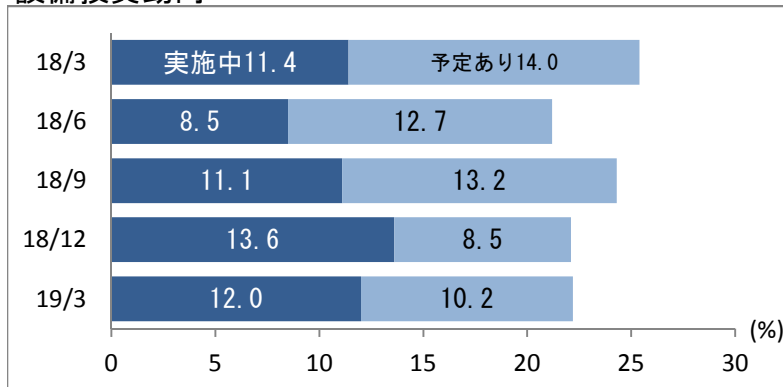


販売価格DIは+6.4（前回比+1.7ポイント）、販売数量DIは+2.0（前回比△5.9ポイント）となり、販売価格DIは上昇し、販売数量DIは下落しました。

販売数量DIの下落が売上DI下落の主な要因となっています。その中において、電子部品関連の販売数量DIは上昇しており好調です。

2019年4-6月期は、販売価格DIが0.4ポイント、販売数量DIが0.2ポイントともに下落と予想しています。

設備投資動向



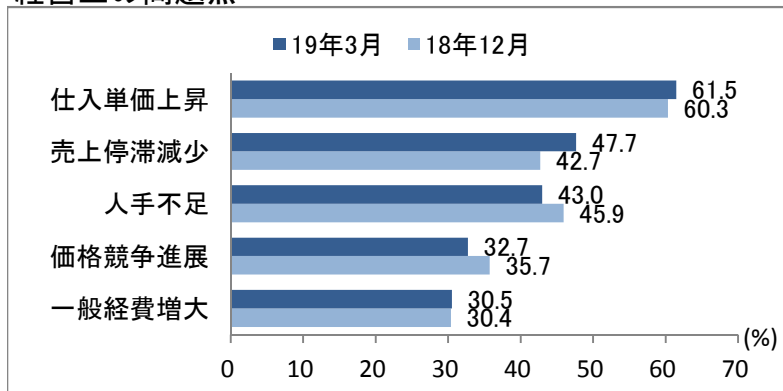
「実施中」12.0%（前回比△1.6ポイント）、「予定あり」10.2%（前回比+1.7ポイント）で合わせて22.2%となりました。

前回調査に比べて横ばいですが、「予定あり」が増加しています。

設備投資の内容は「機械等の新設・増設」が53.8%と最も高く、資金調達方法は「借入の利用」が52.8%と最も高くなりました。

「予定あり」の増加と「機械等の新設・増設」が最も多いことから、2月のものづくり補助金公募開始の影響が見られます。

経営上の問題点



第一位は「仕入単価の上昇」(61.5%)、第二位は「売上受注の停滞減少」(47.7%)、第三位は「人手不足」(43.0%)となりました。

「仕入単価の上昇」が引き続き第1位となりました。建築用鋼材価格の高止まりに加え、原油価格が再び上昇しており、今後も仕入単価については厳しい状況が続くと思われ、収益への影響が懸念されます。

「売上受注の停滞減少」が5.0ポイント増加しました。売上DI、収益DIが低下しており、一部ではこれからの業況の先行きを危惧する企業が見られます。

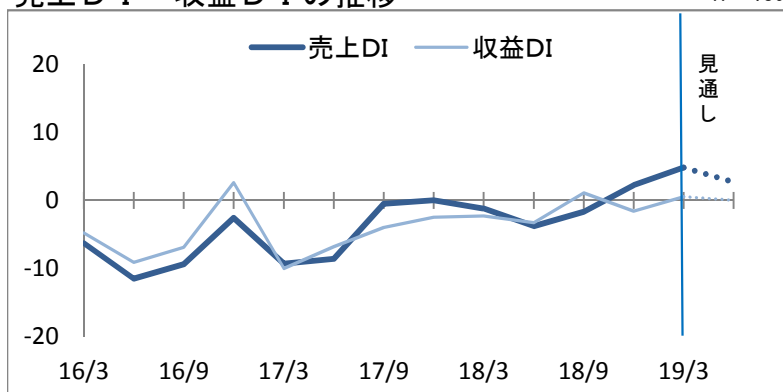
(中小企業診断士：島崎・萩原・真下)

卸売業

競争激しく 価格転嫁難しく

売上D I・収益D Iの推移

n=186

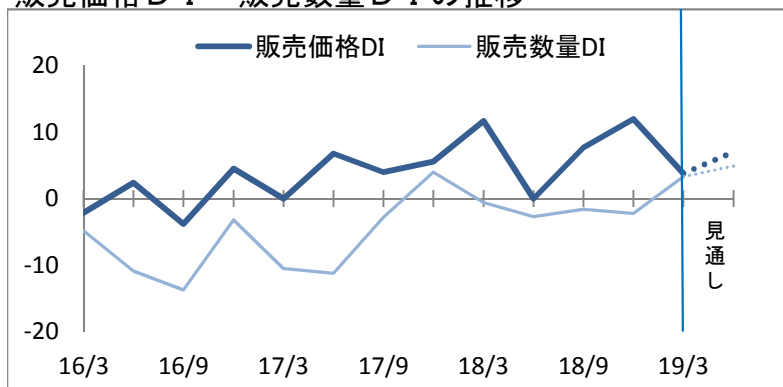


売上D Iは+4.8（前回比+2.6ポイント）、収益D Iは+0.5（前回比+2.1ポイント）となり、売上D I、収益D Iともに上昇しました。

卸売業では金属関連が好調です。建設業が好調で鉄鋼などの建築資材の需要が旺盛であり、引き合いが多くなっているものと思われます。

2019年4-6月期は、売上D Iが2.1ポイント、収益D Iが0.5ポイントともに下落と予想しています。

販売価格D I・販売数量D Iの推移

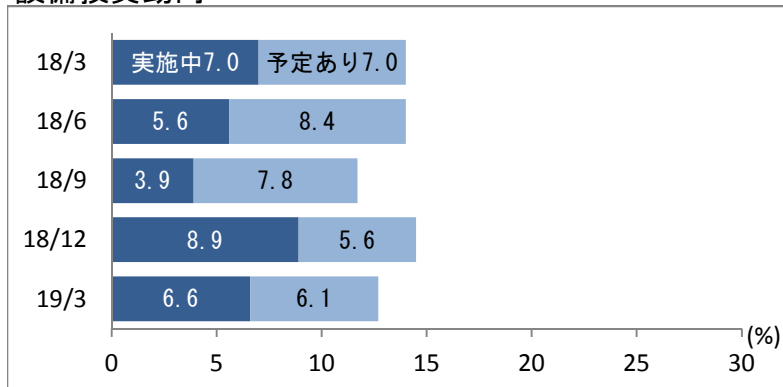


販売価格D Iは+3.8（前回比△8.2ポイント）、販売数量D Iは+3.3（前回比+5.5ポイント）となり、販売価格D Iは下落し、販売数量D Iは大幅に上昇しました。

販売価格の低下を販売数量の増加で補う構図が見えています。需要はありながらも同業他社との価格競争は激しく、収益D Iが一進一退を繰り返す要因となっていると思われます。

2019年4-6月期は、販売価格D Iが3.2ポイント、販売数量D Iが1.6ポイントともに上昇と予想しています。

設備投資動向

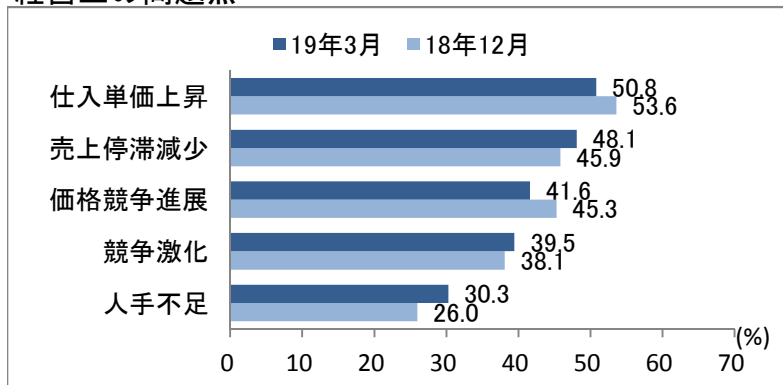


「実施中」6.6%（前回比△2.3ポイント）、「予定あり」6.1%（前回比+0.5ポイント）で合わせて12.7%となりました。

売上ほど収益が上がらないため、設備投資に対して慎重な企業が多いものと思われます。

設備投資の内容は「事務所、店舗等の新設・増設」が36.8%と最も高く、資金調達方法は「自己資金」が44.3%と最も高くなりました。

経営上の問題点



第一位は「仕入単価の上昇」（50.8%）、第二位は「売上受注の停滞減少」（48.1%）、第三位は「価格競争の進展」（41.6%）となりました。

「仕入単価の上昇」が引き続き第1位です。金属価格の高騰が続く一方で、同業他社との競争で値上げは難しく、思うように収益を出せない現状がうかがえます。

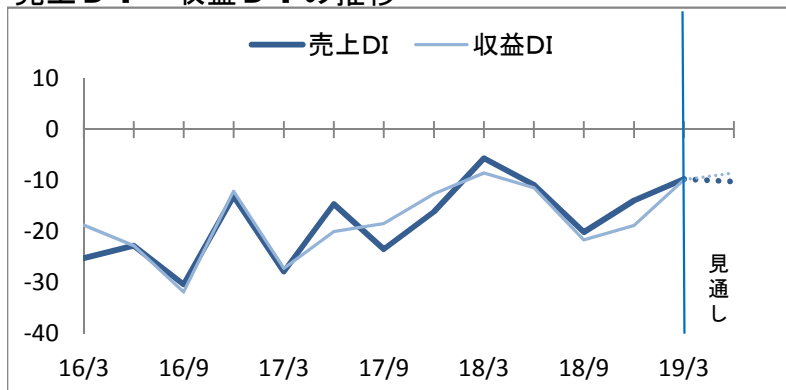
第5位に「人手不足」が登場しました。卸売業でも人手の確保が課題になりつつあります。

（中小企業診断士：島崎・中村・藤村）

小売業

冬の厳しさ薄らぎ 春物衣料が活況に

売上DI・収益DIの推移

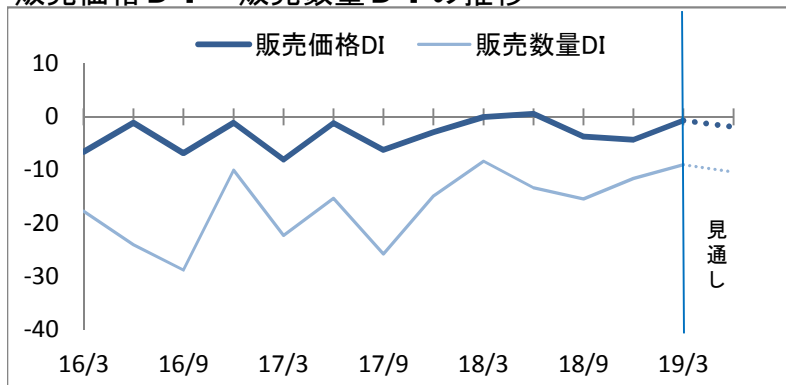


売上DIは $\Delta 9.7$ （前回比+4.2ポイント）、収益DIは $\Delta 9.8$ （前回比+9.0ポイント）となり、売上DIは上昇し、収益DIは大幅に上昇しました。

長らく低迷が続いていますが、2期連続で売上DI、収益DIともに改善傾向にあります。今年の冬は比較的暖かく、春物衣料が例年より早く店頭に並び、売上が好調だったことが影響していると思われます。

2019年4-6月期は、売上DIが0.5ポイント下落、収益DIが1.3ポイント上昇と予想しています。

販売価格DI・販売数量DIの推移

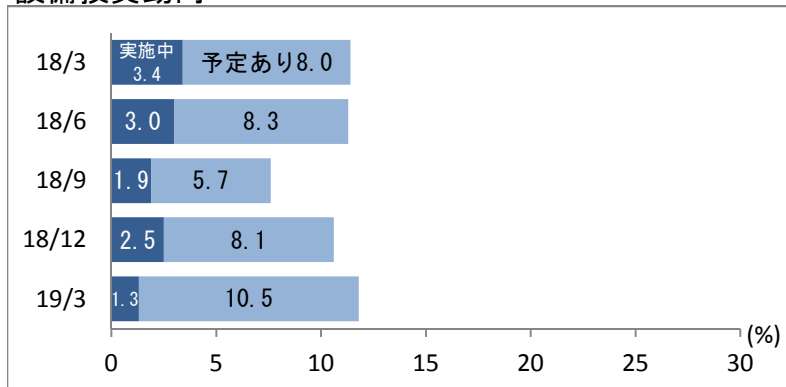


販売価格DIは $\Delta 0.7$ （前回比+3.6ポイント）、販売数量DIは $\Delta 9.0$ （前回比+2.6ポイント）となり、販売価格DI、販売数量DIともに上昇しました。

販売価格DI、販売数量DIともに改善しました。例年より早い春物衣料の売上のほか、訪日外国人の消費行動が低価格帯にシフトしつつあることや、新生活に向けた物品購入などで、少しずつ好転している企業があるものと思われます。

2019年4-6月期は、販売価格DIが1.2ポイント、販売数量DIが1.4ポイントともに下落と予想しています。

設備投資動向

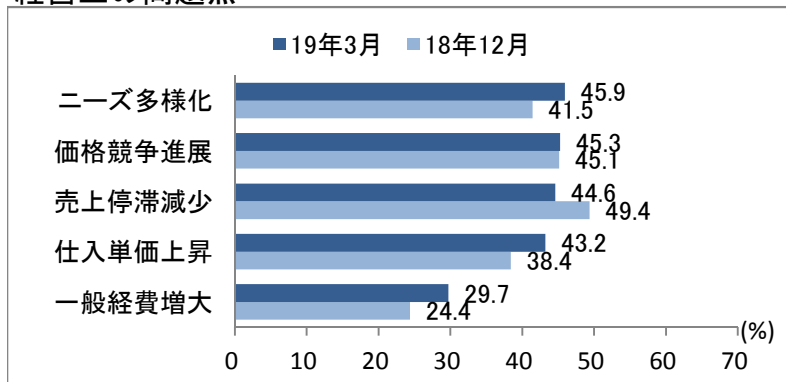


「実施中」1.3%（前回比 $\Delta 1.2$ ポイント）、「予定あり」10.5%（前回比+2.4ポイント）で合わせて11.8%となりました。

設備投資の内容は「事務所、店舗等の保守・更新」が45.5%と最も高く、資金調達方法は「借入の利用」が90.0%と最も高くなりました。

売上、収益ともに長らく低迷が続いており、検討はしながらも設備投資にはなかなか踏み切れない状況にあります。

経営上の問題点



第一位は「ニーズの多様化」（45.9%）、第二位は「価格競争の進展」（45.3%）、第三位は「売上受注の停滞減少」（44.6%）となりました。

「一般経費の増大」が5.3ポイント、「仕入単価の上昇」が4.8ポイント、「ニーズの多様化」が4.4ポイントそれぞれ増加し、経営課題は横並びの状況にあり、小売業では経営課題が多様化しています。

売上の改善により、高騰する仕入単価と訪日外国人客の増加によるニーズがクローズアップされたものと思われます。

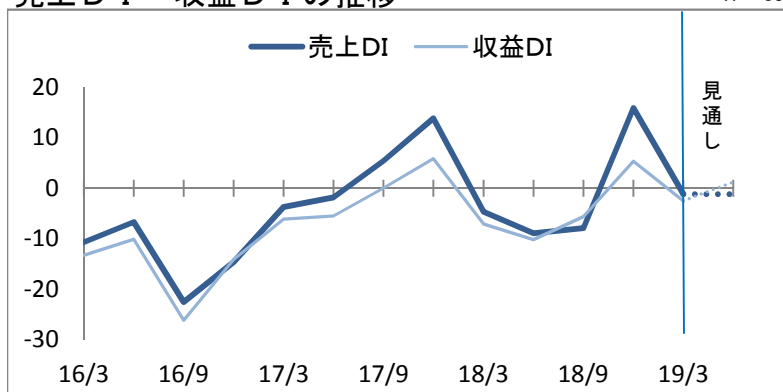
（中小企業診断士：仲井・井筒・宗和）

飲食業

暖かい冬 客足を遠ざける

売上D I・収益D Iの推移

n = 83

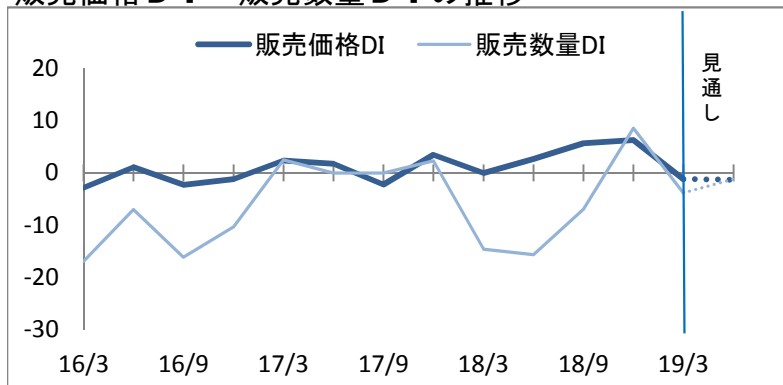


売上D Iは $\Delta 1.2$ （前回比 $\Delta 17.0$ ポイント）、収益D Iは $\Delta 2.5$ （前回比 $\Delta 7.8$ ポイント）となり、売上D Iは大幅に下落し、収益D Iは下落しました。

売上D I、収益D Iともに一転してマイナス圏となりました。暖冬の影響で、鍋料理など冬の定番料理を提供する店で客足が鈍ったことが影響していると思われます。

2019年4-6月期は、売上D Iが横ばい、収益D Iが3.7ポイント上昇と予想しています。

販売価格D I・販売数量D Iの推移

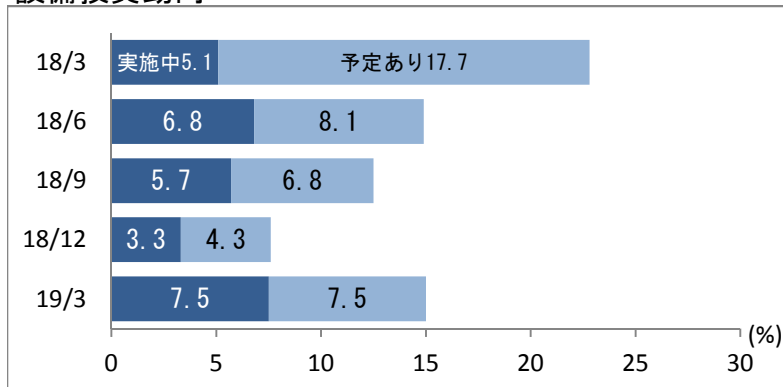


販売価格D Iは $\Delta 1.2$ （前回比 $\Delta 7.5$ ポイント）、販売数量D Iは $\Delta 3.8$ （前回比 $\Delta 12.4$ ポイント）となり、販売価格D Iは下落し、販売数量D Iは大幅に下落しました。

販売価格D I、販売数量D I双方の下落が売上D I低迷の要因となっています。客足の鈍さに加え、同業他社との競争が厳しくなっており、やむなく価格を下げる店が出て来ているものと思われます。

2019年4-6月期は、販売価格D Iが0.1ポイント下落、販売数量D Iが2.6ポイント上昇と予想しています。

設備投資動向

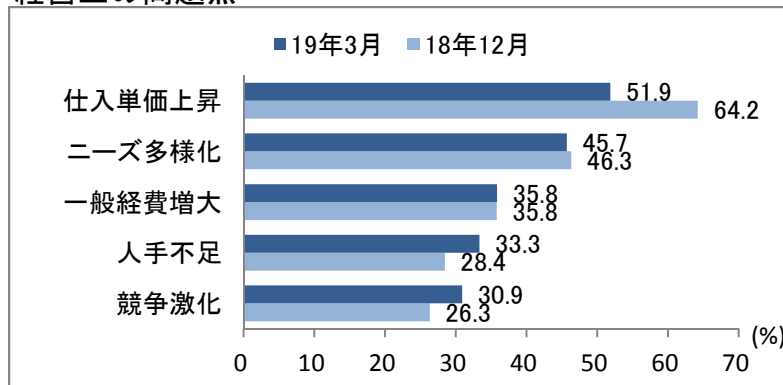


「実施中」7.5%（前回比+4.2ポイント）、「予定あり」7.5%（前回比+3.2ポイント）で合わせて15.0%となりました。

年末の売上増加を受け、設備投資に取り組む企業が増えています。ただ、今期の売上D I、収益D Iが低下しており、先行きの見通しも厳しいことから、昨年同期よりは設備投資に慎重な企業が見られます。

設備投資の内容は「事務所、店舗、工場等の保守・更新」が36.4%と最も高く、資金調達方法は「自己資金」と「借入の利用」が半々となりました。

経営上の問題点



第一位は「仕入単価の上昇」(51.9%)、第二位は「ニーズの多様化」(45.7%)、第三位は「一般経費の増大」(35.8%)となりました。

「仕入単価の上昇」が12.3ポイントも減少しましたが、依然として第一位となりました。生鮮品の価格高騰は落ち着いたものの、加工品の値上げが相次いでおり、引き続き食材価格上昇への対応が課題となっています。

「人手不足」が第四位に浮上しました。飲食業でも人手不足が深刻になりつつあります。

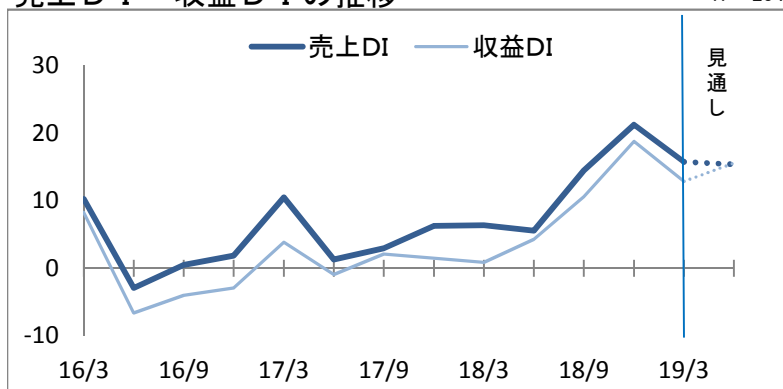
(中小企業診断士：仲井・嶋田・竹並)

建設業

受注は多く 人手は足りず

売上DI・収益DIの推移

n=234

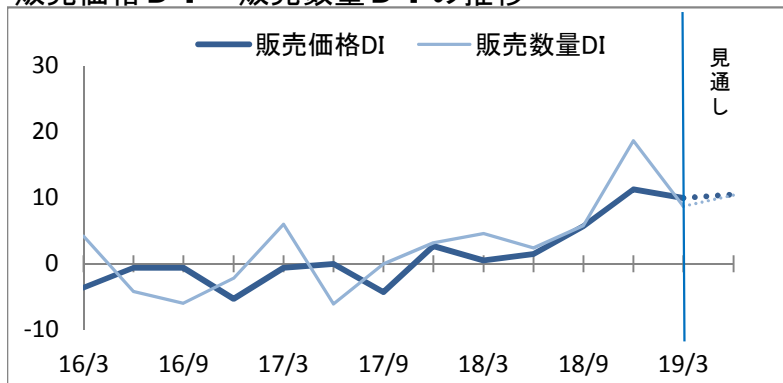


売上DIは+15.8（前回比△5.5ポイント）、収益DIは+12.9（前回比△5.9ポイント）となり、売上DI、収益DIともに下落しました。

ただ、プラス圏で好調を維持しています。台風の影響による修繕需要は今もまだ続いていることが要因です。ただ、外注先や人手の確保が難しくなっており、受注増につなげるのが難しくなっています。

2019年4-6月期は、売上DIが0.4ポイント下落、収益DIが2.7ポイント上昇と予想しています。

販売価格DI・販売数量DIの推移

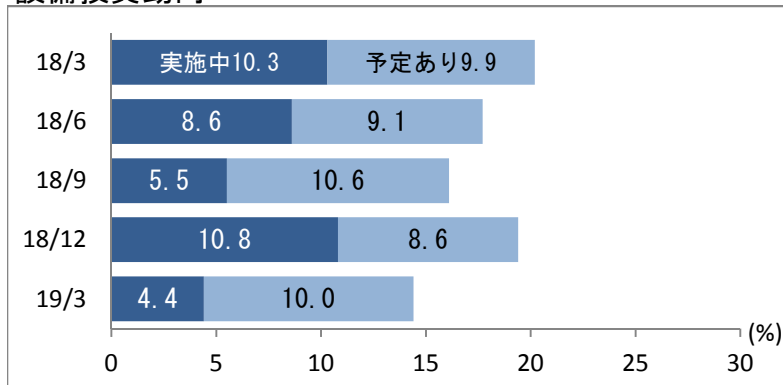


販売価格DIは+10.0（前回比△1.3ポイント）、販売数量DIは+8.7（前回比△10.0ポイント）となり、販売価格DIは下落し、販売数量DIは大幅に下落しました。

一般家庭向けの建築工事業では台風以降、火災保険の査定依頼が殺到し結果が出るのが遅延しており、なかなか修繕工事にとりかかれない案件が出てきています。

2019年4-6月期は、販売価格DIが0.5ポイント、販売数量DIが1.7ポイントともに上昇と予想しています。

設備投資動向

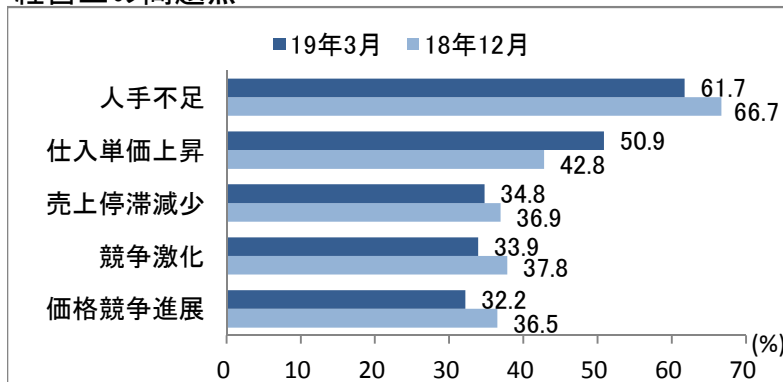


「実施中」4.4%（前回比△6.4ポイント）、「予定あり」10.0%（前回比+1.4ポイント）で合わせて14.4%となりました。

台風後の修繕需要が相変わらず多くあり、本業が多忙になっているため余裕がなく、設備投資の検討を後回しにする企業が増えているものと思われます。

設備投資の内容は「車両」が50.0%と最も高く、資金調達方法は「借入の利用」が44.0%と最も高くなりました。

経営上の問題点



第一位は「人手不足」（61.7%）、第二位は「仕入単価の上昇」（50.9%）、第三位は「売上受注の停滞減少」（34.8%）となりました。

「人手不足」が5.0ポイント減少しながらも第一位です。慢性的な人手不足もさることながら、修繕需要の急増で人手不足感はより切実なものになっています。

「仕入単価の上昇」が8.1ポイント増加しました。鉄鋼などの建材価格の上昇が要因と思われます。原油価格も再び上昇に転じており、価格の更なる上昇への懸念があります。

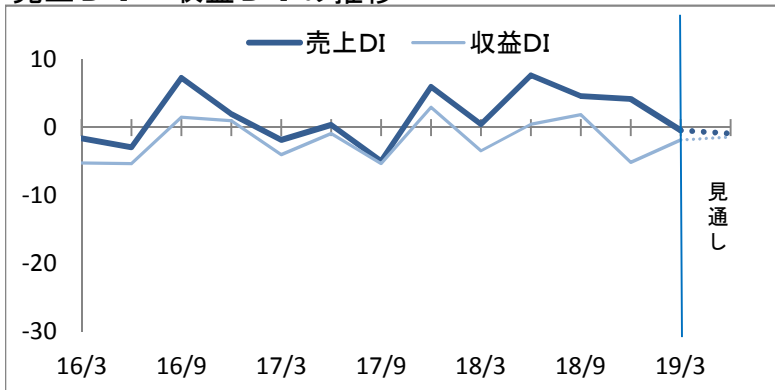
（中小企業診断士：澤田・芝田・小阪）

サービス業

一進一退 多様化する課題

売上DI・収益DIの推移

n=221

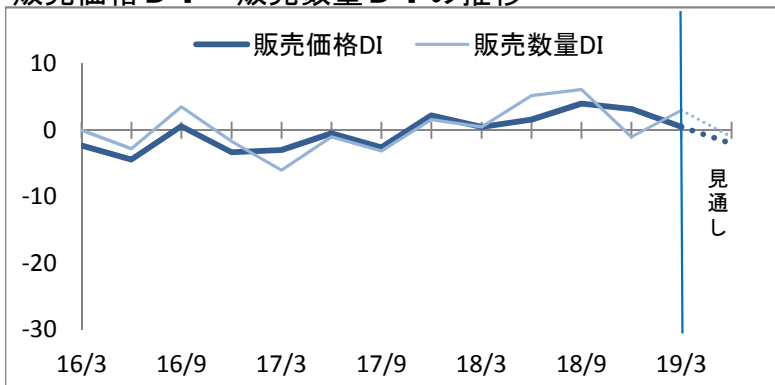


売上DIは $\Delta 0.4$ （前回比 $\Delta 4.6$ ポイント）、収益DIは $\Delta 1.8$ （前回比 $+3.3$ ポイント）となり、売上DIは下落し、収益DIは上昇しました。

売上DI、収益DIともにマイナス圏となり、一進一退を繰り返しています。介護、生活関連サービス業は好調も、登録する派遣社員が足りず、人材派遣が伸び悩んでいます。

2019年4-6月期は、売上DIが0.5ポイント下落、収益DIが0.4ポイント上昇と予想しています。

販売価格DI・販売数量DIの推移

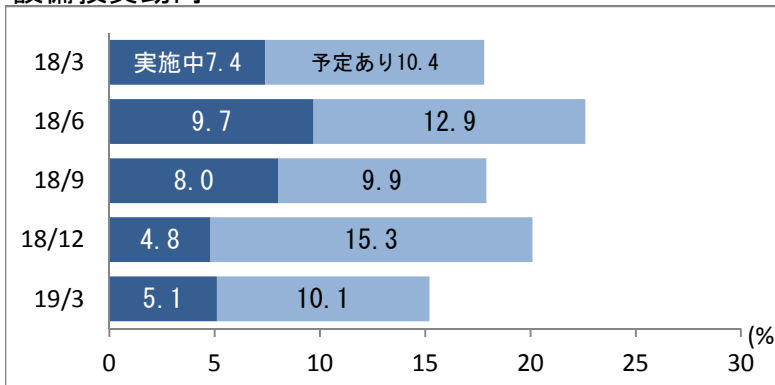


販売価格DIは $+0.5$ （前回比 $\Delta 2.7$ ポイント）、販売数量DIは $+3.0$ （前回比 $+4.0$ ポイント）となり、販売価格DIは下落し、販売数量DIは上昇しました。

販売数量DIは生活関連サービス業に改善が見られ上昇しましたが、販売価格DIは全般的に低下しています。同業他社との競争が影響していると思われます。

2019年4-6月期は、販売価格DIが2.5ポイント、販売数量DIが4.0ポイントともに下落と予想しています。

設備投資動向

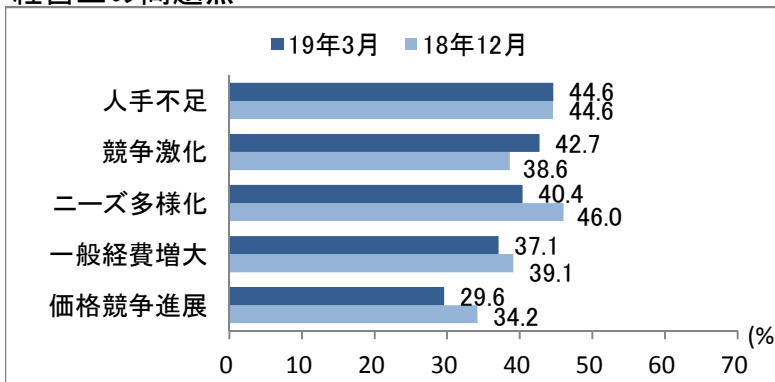


「実施中」5.1%（前回比 $+0.3$ ポイント）、「予定あり」10.1%（前回比 $\Delta 5.2$ ポイント）で合わせて15.2%となりました。

全体で4.9ポイント低下しました。一時売上DIが好調だったものの、一進一退を繰り返しており、設備投資に慎重になっているものと思われます。

設備投資の内容は「事務所、店舗、工場等の新設・増設」が33.3%と最も高く、資金調達方法は「借入の利用」が50.0%と最も高くなりました。

経営上の問題点



第一位は「人手不足」(44.6%)、第二位は「競争の激化」(42.7%)、第三位は「ニーズの多様化」(40.4%)となりました。

「人手不足」が第一位を維持しています。特に介護で人手不足が顕著になっています。

「競争の激化」が4.1ポイント増加した一方、「ニーズの多様化」が5.6ポイント減少した結果、第一位から第三位までほぼ横一線となり、サービス業においては経営課題が多様化しています。

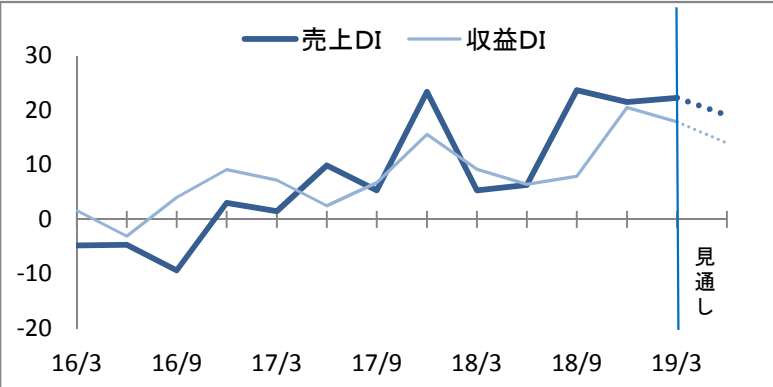
(中小企業診断士：仲井・萩原・宗和)

運輸業

ガソリン代上昇 予断を許さず

売上D I・収益D Iの推移

n = 86

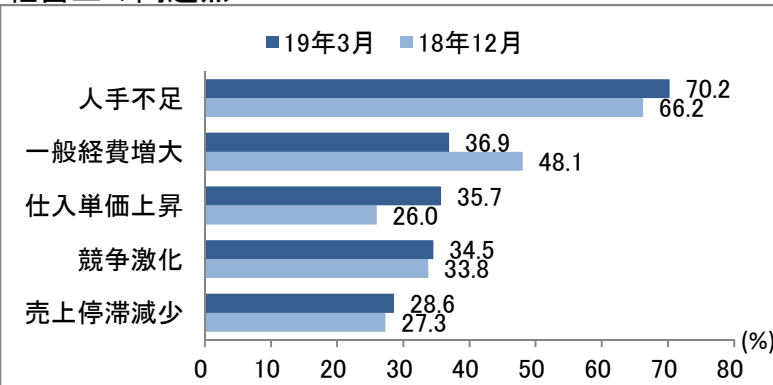


売上D Iは+22.3（前回比+0.8ポイント）、収益D Iは+17.9（前回比△2.6ポイント）となり、売上D Iは横ばい、収益D Iは下落しました。

建材を中心に輸送への需要は引き続き好調ですが、ドライバーの確保が難しく、更なる受注に踏み切ることが難しくなっています。

2019年4-6月期は、売上D Iが3.2ポイント、収益D Iが3.9ポイントともに下落と予想しています。

経営上の問題点



第一位は「人手不足」(70.2%)、第二位は「一般経費の増大」(36.9%)、第三位は「仕入単価の上昇」(35.7%)となりました。

「人手不足」が7割を超えました。受注増が続く一方で、ドライバーの確保は非常に難しくなっており、更なる売上への増加は厳しくなっています。

「仕入単価の上昇」が9.7ポイントも増加しました。外注によるトラックの確保が難しくなっていることや、再び上昇し始めた原油価格が影響を与えていると思われます。

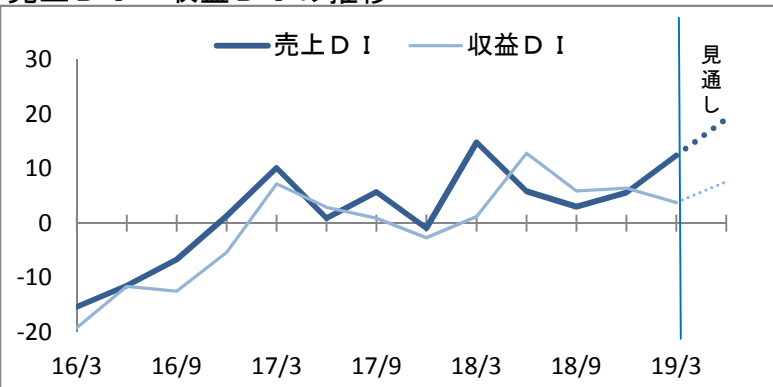
(中小企業診断士：井筒・小阪・宗和)

不動産業

駆け込み需要も 地価上昇に不安感

売上D I・収益D Iの推移

n = 105

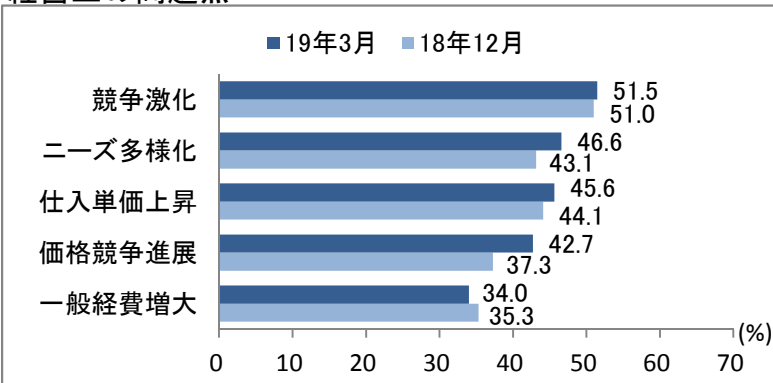


売上D Iは+12.4（前回比+6.8ポイント）、収益D Iは+3.8（前回比△2.6ポイント）となり、売上D Iは大幅に上昇し、収益D Iは下落しました。

消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の影響があると思われます。一方、都市部を中心に地価の上昇が顕著になっており、収益への不安が見られます。

2019年4-6月期は、売上D Iが6.7ポイント、収益D Iが3.8ポイントともに上昇と予想しています。

経営上の問題点



第一位は「競争の激化」(51.5%)、第二位は「ニーズの多様化」(46.6%)、第三位は「仕入単価の上昇」(45.6%)となりました。

「競争の激化」が第一位です。「価格競争の進展」も増加していることから、駆け込み需要はあるものの、同業他社との競争は厳しくなっています。

「仕入単価の上昇」については、地価の上昇が影響していると思われます。

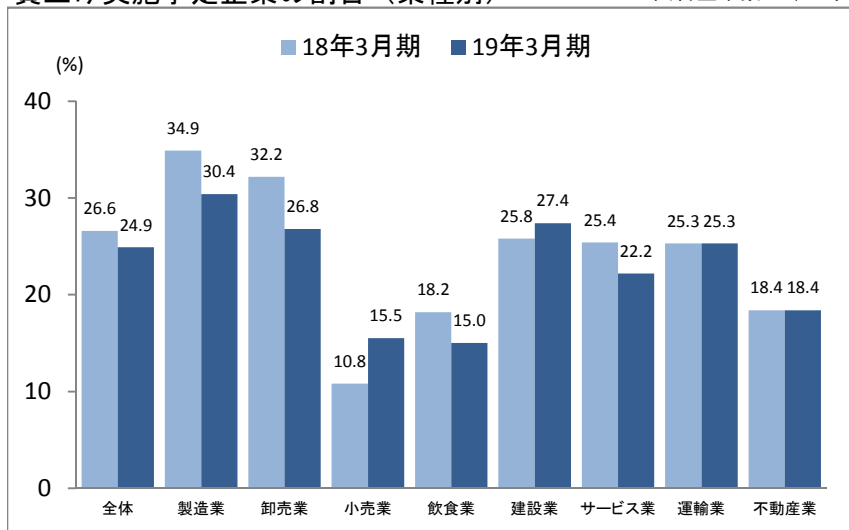
(中小企業診断士：澤田・畑・小倉)

賃上げについて

賃上げ検討 4社に1社

賃上げ実施予定企業の割合（業種別）

回答企業数：1,489社



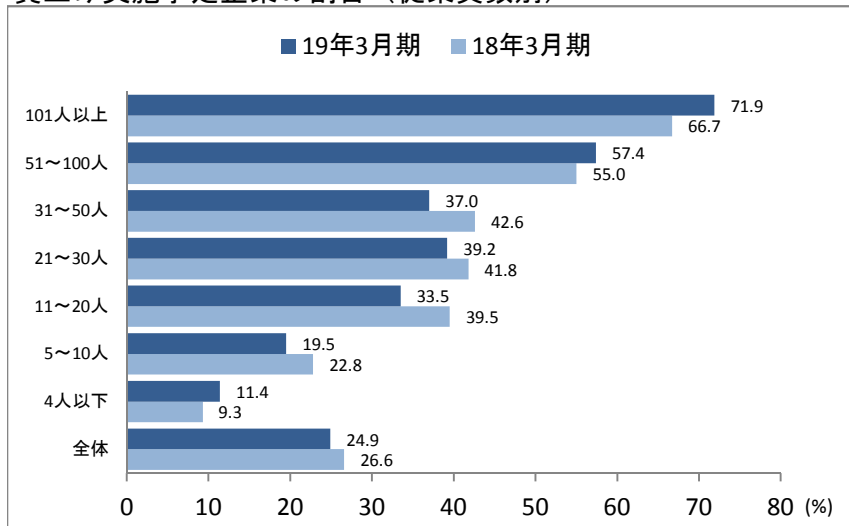
「実施予定」が24.9%、「実施しない」が75.1%となり、「実施予定」は昨年と比べて1.7ポイント低下しました。

昨年に比べ減少したものの、4社に1社は賃上げ予定です。従業員の流出防止策として、厳しい収益状況ながらも賃上げ実施に踏み切る企業があります。

業種別では、製造業30.4%、建設業27.4%、卸売業26.8%、運輸業25.3%で実施企業が全体の24.9%を上回りました。人手不足が深刻な業種で割合が高くなっています。

賃上げ実施予定企業の割合（従業員数別）

回答企業数：1,489社



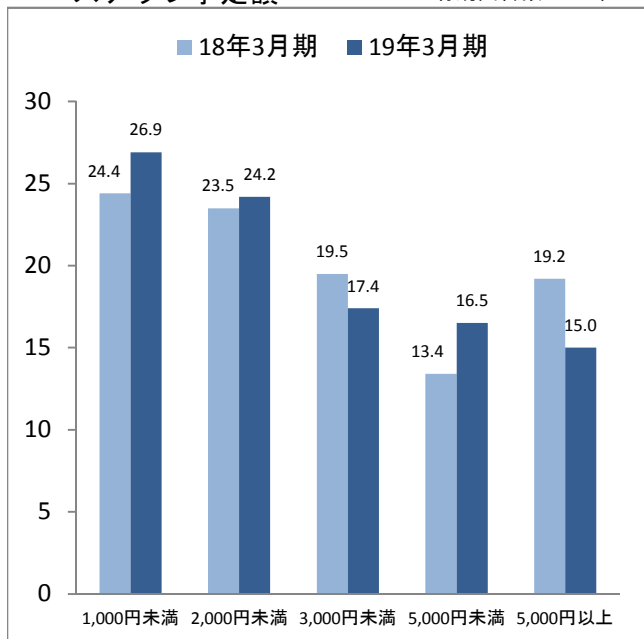
従業員数別では、従業員10人超の企業で全体の24.9%を上回っています。

昨年よりは実施企業は若干減少しましたが、割合は高くなっています。

ただ、ベースアップ、定期昇給の予定額は全般的に上昇幅が縮小傾向です。従業員のために少しでも賃上げを行おうとする企業の姿勢が見られません。

ベースアップ予定額

有効回答数：327社



定期昇給予定額

有効回答数：317社

